

## 鹿児島県立農業大学校学校関係者評価委員会の主な意見

1 日 時 令和7年4月25日(金)  
午後1時30分～3時30分

2 場 所 鹿児島県立農業大学校会議室

3 主な意見 【○=評価委員からの意見, ●=回答】

### (1) 入学生の確保

- 農業教育に向けて高校生だけでなく、小中学校生の教育で農業についてわかりやすく伝え、ファンづくりに努めるべきだが教育庁でも実施しているか。  
農業について子供に興味を持ってもらえる取組が必要と考える。
- 小中学校教育でも農業について指導しているが、義務教育課に伝えたい。
- なぜ、農大への入学者が少ないのか分析が必要と考える。  
施設の充実度合いをもっと積極的にPRすべき。

### (2) 学生の知識・技術の向上

- 農業技術検定3級は基本的な問題が多いと思われる。  
受験率100%も必要だが合格率80%も必要ではないか。
- 農業技術の習得や導入部分として学生の受験意欲促すことを目的としたい。
- 市来農芸高校生徒に農大生のプロジェクト発表を見てもらうことで、意識の変化が見られるように感じた。
- 出前授業を見ることで学生の意識の変化があると考えるため、今後も継続して取り組みたい。
- 40日の農家留学研修期間は長いのではないか。受入農家の負担も大きく、学生も楽しんでいないのではないか。  
周辺の農家からは労働力と見なしている受入農家もいる。
- 農家留学研修は、学生に農業を理解してもらう重要なカリキュラムと考えている。  
委員から指摘のあった研修日数については農大内で検討したい。

### (3) 就農・就業進路指導尾充実

- 昨年度JA広報誌に農大オープンパンパスを掲載するなど連携を強化してきている。  
これまで営農指導員は農大OBが多かったが、近年減少していることから、連携強化を図っていきたい。
- 就農・就業以外の学生はどの業種に就職したのか。  
また、県外出身の学生は県内に残ったのか。  
過去の卒業生の就農定着率は解るのか。
- 就農・就業以外の学生は一般企業や関係団体に就職した。また、県外学生の6割は農家留学研修等で知り合った企業等に就職している。  
過去の卒業生の就職定着率は把握できていない。
- 農大生の営農指導員も少なくなっているが、学生に研究職など専門職の育成にも力を入れて欲しい。
- 研究部門への進学や県職員への就職などを後押している。

### (4) 情報発信の強化

- 農業高校もHPよりインスタを主に運営している  
インスタは情報の鮮度が重要であることに対し、HPは制度など詳細な情報管理が求められている。  
農業高校も農大のHPやインスタなども参考に改善していきたい。

(5) その他

- 本年度の評価会は、数値目標などより充実してきていることから、今後も継続して取り組みを進めて欲しい。  
PDCAサイクルを活用し、将来の農大生確保に努めて欲しい。  
昨年度で一番苦労した取組を教えて欲しい。
- 入学生の確保が一番苦労した。
- 入学生の確保は、農大と教育委員会だけでなく、県全体の取組として検討すべき課題と考える。
- 2時間の説明だけの会ではなく、いろいろな意見を交わす会にすることも必要と考える。
- 農大の現状と課題について理解できたが、初めて参加した委員には理解しにくい課題もあったと思う。  
入学生の確保などは、県外学生は外し、県内学生数の確保を指標にすることも検討して良いのではないか。